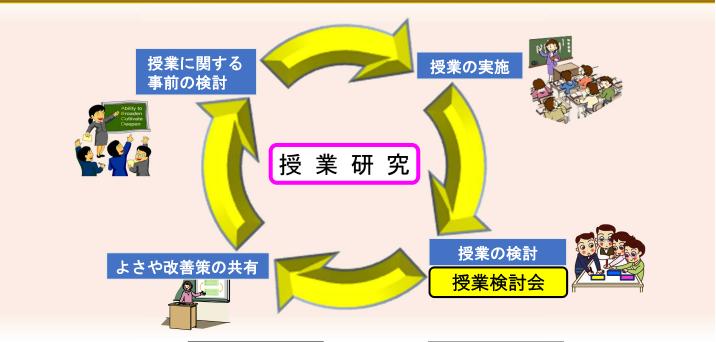
平成26~28年度 プロジェクト研究

「みんなで取り組み、学び合う授業研究」の進め方Ⅱ **−授業力向上を図るワークショップ型研修を通して−**

当センターでは、授業力の向上を図るために全職員で取り組み、学び合う ことのできる授業研究の進め方について研究してきました。

本パンフレットでは、ワークショップ型研修の手法を生かすとともに、各 学校の課題を踏まえて授業研究の活性化を図った取組について、事例を挙げ て紹介しています。



授業研究の

具体的な進

め方とワー

クショップ

型研修の手

これまでのパン フレットも併せて 参考にすると、よ り深まりのある授 業研究が期待でき ます。



鹿児島県総合教育センターの マスコットキャラクター 「てぃーらん」



平成23年度発行 みんなで取り組み、学び合う授業研究 -授業力やチームワークの向上を目指して-



授業研究の

進め方とファ

シリテーター

の役割につ

平成26年度発行 授業力を高める校内研修の進め方 - 「みんなで取り組み、学び合う授業研究」



鹿児島県総合教育センタ

Webサイト http://www.edu.pref.kagoshima.jp/ ブログ http://center.edu.pref.kagoshima.jp/

授業研究の活性化に向けた当センターの取組

当センターでは、授業研究を<u>「授業に関する課題を組織的に解決するための、授業づくりから</u> 授業検討及び改善策等を授業実践に生かすまでの一連の過程」と捉えています。

付箋等を使いながら、小グループで検討・改善策を考えるワークショップ型の授業検討会の手法は、県内でも一定の普及が図られており、成果を挙げてきました。

また、各学校がそれぞれの実態に応じて、ワークショップ型の授業検討会を取り入れた授業研究を段階的に深めることができるよう、以下の3段階の授業研究モデルを提案してきました。



ホップ段階

自由闊達に意見を述 べ合う段階

- 付箋やワークシートを用いた活動的な場づくり
- 授業検討の視点に沿った 話合い

ステップ段階

よさや改善策を日常の授業に生かす段階

- 意見の分類・整理、研究 授業の改善点の絞り込み
- 各グループで話し合った 研究授業の改善点の共有化

ジャンプ段階

具体化したよさや改善策を研究・実践しながら、次の授業研究に つなげる段階

- 日常の授業に生かす改善 策の生み出し
- 改善策を効果のあるものにするための手立ての具体化

3段階の授業研究モデル

しかし、一方で以下のような声も聞こえてきました。

意見はたく さん出るよう になったけど まとまらない。 パターン化され、目的がはっ きりしないワークショップ型で 研修をやっていると内容に深ま りが感じられない。 意見の言いっ放しになってしまい,日 常の授業とつながり が感じられない。 専門以外の教 科等の授業に対 して、活発な意 見が出ない。





そこで、当センターでは以下の三つの課題を解決するための取組を通して、授業研究の更なる活性化を目指しました。次のページから、それぞれの取組について説明します。

- 1 全職員が主体的に授業研究に取り組むためには、どのようにすればよいのだろうか。
- 2 学校の課題に基づいて焦点化した授業研究にするには、どのように すればよいのだろうか。
- 3 共有した改善策を日常の授業改善につなぐためには、どのように すればよいのだろうか。

全職員が主体的に授業研究に取り組むためには、どの ようにすればよいのだろうか。 (具体的な取組はpp. 5-6参照)



全職員が主体的に授業研究に取り組むためには、指導案検討や授業検討会等 で、授業研究の目的や方法等を全職員が理解して取り組むことができるように します。

法

例

学習指導案作成に向け て互いに資料を提供しま す。

授業参観では、改善策 の有効性等を中心に見取 ります。

授業者の意図の共有

模擬授業の実施

改善策の検討

授業の実施

学習指導案を基にした 模擬授業を実施し、課題 を把握します。

課題を踏まえ、発問・ 板書計画, 学習形態等の 改善のアイディアを出し 合います。

1単位時間の全てを行うのではなく、導入の過程だけの実施や、 発問などの指導の手立ての部分的な実施も考えられます。

クショップ型の授業検討会

<実際例(45分の場合)

進め方の説明

グループ検討

(3分)

(20分)

グループで授業を分析し、課題解決を図ります。

授業意図等の説明(2分)

- 書いた内容を一人ずつ簡潔に紹介しながら、ワークシートに付箋を貼り 1 ます。
- 良かった点、改善点等の内容別に付箋を仲間分けします。 2
- 3 仲間分けしたものについて話し合います。
- 課題についての具体的な改善策を話し合います。
 - 一人一人の発言の機会を確保するために、グループの人数は4人程度が適切です。
 - 〇 授業者は、適宜各グル―プの話合いに参加し、質問等に答えるようにします。
 - 2では、仲間分けを終えることにこだわる必要はありません。その話合いをする こと自体が大切なことです。
 - 3では、付箋の多いものに論点を絞ると、話合いが活性化します(少数意見を大切にすることにも留意します。)。 Ο

グループ発表 (10分)

改善策等の共有化(5分)

指導助言 (5分)

グループ発表で出された改善策について検討したり、今後の 実践事項を策定したりします。

○ 検討会で取り上げることができなかった課題については、いつ、どのような方法 で検討していくかなどを明確にしておきます。

人々の活動が容易にできる よう支援し、うまく事が運ぶ ように舵取りする役割を担う のがファシリテーターです。

全員が参加し、活発な授業 検討会にするためにはファシ リテーターの役割を全員が理 解することが大切です。

場のデザインの

共有 スキル

1

対人関係の

スキル

構造化の スキル

1 合意形成の スキル

発散

収束

柔らかく主張して、話合いを方向付ける。

かみ合わせて、 整理する

質問で意見を引き出す。

曖昧な主張を明確にする。 全体像をつかみ、多彩な視点から議論する。

目的、目標を設定し、合意する。

傾聴で安心感・信頼感を与える。

話しやすい雰囲気をつくる。 進め方を設定する。

議論を描く、図解を活用する。

まとめて、分かち合う

場をつくり、つなげる

受け止めて、引き出す

- 対立をチャンスと捉える。
- 適切な対立解消方法を選択する。
- 言葉の奥の本音を探る。

【ファシリテーションのスキル】 (独立行政法人教員研修センター『教員研修の手引き2016』から)

決定

学校の課題に基づいて焦点化した授業研究にするには、 どのようにすればよいのだろうか。 (具体的な取組はpp. 7-8参照)



授業を実施する前の授業づくりの段階から、授業実施後の授業検討会まで、一貫した共通の視点をもって全職員で取り組むことが大切です。

そこで、「授業づくりの視点」の例として以下の5点を提案します。各学校の実情に応じて「授業づくりの視点」を2、3点設定し、年間を通して一貫して取り組むことが大切です。このような取組により、教科等や学年の枠を超えた、職員全体での授業研究になります。

視点A 生徒指導に関する視点

生徒指導の目標である「自己指導能力の育成」を図るための留意点「自己存在感を与える」,「共感的な 人間関係を創る」,「自己決定の場を与える」が授業において具現化されているかという視点

視点B 特別支援教育に関する視点

通常の学級における「ユニバーサルデザイン」や特別支援学校における「授業づくりの視点」に基づき、全ての児童生徒にとって分かりやすい授業を行うための、指導・支援の在り方について検討されているかという視点

視点C ICTの活用に関する視点

情報教育の目標である児童生徒の「情報活用能力」の育成を目指し、授業において教員によるICT活用と児童生徒によるICT活用が具現化されているかという視点

視点D 「判断基準」に基づく授業づくりに関する視点

児童生徒の思考力・判断力・表現力を育成するための「判断基準」(「説明」や「論述」等の言語活動において、目標の達成状況を判断するための具体的な尺度)に基づいた評価と指導の改善が図られているかという視点

視点E その他、学校のニーズに応じた視点

上記の視点A~Dに当てはまらない、各校の研究テーマや大切にしたい授業づくりの視点

手 法 例

授業参観カード

項	目		視 点 例
導	λ	1	興味・関心を高めるような工夫をしている。
		2	本時のねらい(めあて)をきちんと板書している。
板	書	3	板書は構造的に表され、分かりやすい。
発問	引 等	4	明確な指示を出している。
		5	既習事項を活用して考えさせるなど、思考を深める発問をしている。
		6	様々な考えを引き出す発問をしている。
		7	児童生徒が理解できるような話し方を工夫している。
/	指導	8	ノートの活用が板書の写しに留まることなく、思考を促すものになっている。

【授業参観の視点例】

視点を明確にして参観し、授業検討会で話 題の焦点化を図ることが大切です。



【授業参観カードの例】

共有した改善策を日常の授業改善につなぐためには、 どのようにすればよいのだろうか。 (具体的な取組はpp. 9-10参照)

授業検討会で出された改善策を全職員で共有し、共通実践事項として日常の授業に生かすこと は、授業力向上につながります。

そのためには、一人一人が授業づくりから授業後の検討、日常の授業の実施まで、共有された 具体的な改善策を意識し続けることが大切です。また、日常の授業で、改善策をどのように生か すことができたか振り返ることができるようにします。



右の図は、「授業づくりの視点」(p.3参照)の中から学校の課題に応じて視点を設定し、各回の授業研究で重点を変えながら行った例です。

授業検討会で出されたよさや改善策 などを日常の授業で実践

視 視 視 視点A 点 第二回研修 点Bを中心に 点Cを中心に 日 日 第一回研修 (生徒指導に関する視点) 第三回研 常 常 常 0) 0 の 視点B 授業 授業 授 (特別支援教育に関する視点) 視点C (ICTの活用に関する視点)

よさや改善策などを次の授業に生かす授業研究のサイクル 【「授業づくりの視点」を設定した授業研究の流れの例】

手 法 例

授業改善カード

改善策が「いつ、何を、どのように実践する。」のように具体的であれば、授業改善の状況や児童生徒の変容を確実に把握できます。

そして、実践事項を集約したり、個人でファイル化したりして継続的に振り返ることが大切です。

授業改善ミニカード

年月日氏名[○○○○]

【授業や授業検討会を通して学んだこと】

- 教師間の連携の大切さ
- ・学び合いのための場の設定

授業や授業検討会を通して 学んだこと等を記入します。



【具体的な実践事項】

- ・略案を作成して,朝や放課後に打合せをする。
- ・児童机の配置を変更する。

今後の共通実践事項や自分の 授業の改善策を具体的に記入し ます。

【授業改善カードの例】

共通実践事項の掲示



教科や学年の部会等で共通実践事項による児童生徒の変容を話題にし、確認しながら進めることができます。

共通実践事項による教師や児童生徒の変容については、学校評価で振り返ることも大切です。

授業研究実践校の取組

1

全職員が主体的に授業研究に取り組むためには、どの ようにすればよいのだろうか。

授業研究の目的や方法等を共有し、全職員が授業検討会の進め方を理解して取り組むことが大切 です。

これって イイネ!

段階的、計画的な役割分担

鹿児島県立指宿養護学校

小学部、中学部、高等部の全職員が学部を超えて参加し、授業検討会を行いました。 ファシリテーターは、経験がある職員、中堅、若手と順に務め、全員がファシリテーションの スキル(p. 2参照)を意識しながら取り組みました。

事前研修

方について研修

ワークショップ型

第1回研修

第2回研修

第3回研修

段階的、計画的にファシリテーターを担当

ファシリテーター

の授業検討会の進め の経験がある職員 による授業検討会

中堅職員が

ファシリテーターを 務める授業検討会

若手職員が

ファシリテーターを 務める授業検討会

先生方の声から

- 全職員がファシリテーターの役割を意識して発言すること が多くなった。
- ファシリテーターの育成については、短期間の取組では難 しいかもしれない。しかし、意識は高まってきたので、今後 の校内研修で継続して、多くの先生方が経験できればいいと 思う。



これって イイネ!

全職員がファシリテーターを担当

いちき串木野市立串木野西中学校

ファシリテーターを全職員ができるよう輪番制にし、研修係を中心にして2年計画で取り組み ました。全職員がファシリテーターの役割を理解し、ファシリテーションのスキルを意識して進 めることで、改善策の合意形成のための時間確保ができるようになりました。

これらの改善策で. すぐにできそうなもの はないですか。

優先的に進める改善策 を探った「合意形成」 のスキル



改善策をまとめる際の言葉掛けに留意 して共通実践事項をまとめました。

無生方の声から

- 雰囲気づくりがよくできていたので話合いがしやすかった。
- ファシリテーターの役割を自覚して進めることが大切だと思った。授業検討会を重ねるごとに、 充実してきた。

これって イイネ!

授業検討会でのICT活用

霧島市立国分南中学校

研修係とファシリテーターが中心となり、書画カメラや大型のテレビモニター等を使って視覚 的に分かりやすく、授業検討会の活性化を図りました。







【授業検討会の流れを板書】【各グループに板書の写真を配布】【タイマーでの時間管理と書画カメラを 活用したグループ発表】



各グループからの改善策を前面に掲示し ファシリテーターが合意形成の流れを分かり やすく構造化できるようにしました。

先生方の声から

- 共通実践事項をまとめる際に難しさを感じた が、ファシリテーターの役割もマニュアル化さ れ、みんなで取り組めるようになってきた。今 後も分担していきたい。
- 今後、授業研究はどのような内容(授業づく りの視点のもち方)にしていけば更に深まるの か考えていきたい。

これって イイネ!

全体ファシリテーターをペアで担当

鹿児島県立南薩養護学校

小学部、中学部、高等部の全職員で授業検討会を行いました。小グループを編成し、多様な意 見を集約して改善策を導き出す全体ファシリテーターはペアで行いました。



進行と記録を分担して進めました。



ファシリテーター同士でも話し合 いながら意見を構造化していくこと ができました。

- ファシリテーターの技術が向上して、みんなの意見がうまくまとまっていた。
- ファシリテーターには、みんなの意見を絞り込み一つにまとめるなど、話合いの方向性や シナリオなどが必要だと思った。

学校の課題に基づいて焦点化した授業研究にするには, どのようにすればよいのだろうか。

「授業づくりの視点」を共有するこ 学校の課題を解決するための授業研究であることを意識し、 とが大切です。

これって イイネ!

『前打合せから視点を明確にした話合い

鹿児島県立吹上高等学校

授業者、授業学級の担任、管理職(教頭)、ファシリテーターが同席して、授業及び授業検討 会当日の動きなどについて、事前に打合せを行いました。



【事前打合せ】

ファシリテーターの進行で、まず授業者が授業 の意図を説明しました。その後、意見交換を行い、 生徒の実態を考慮した具体的な指導内容、授業検 討会を充実させるための運営方法、当日までの準 備や他の職員への周知内容などについて確認しま した。



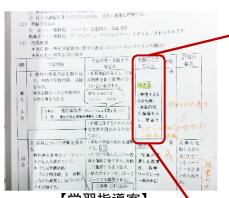


【授業】

教科:芸術(書道) 題材: 雁塔聖教序

目標:変化のある用筆を

理解して書こう。



視点B(特別支援教育の視点)と視点C(ICTの活用に関する 視点)に基づき、用筆の変化をICT機器を活用して視覚化して示 すことで、生徒の理解が深まりました。





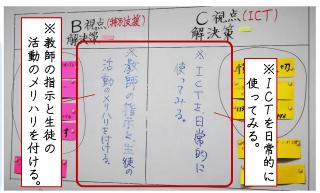
【授業検討会】

*視点とそ 視点B 【学習指導案】

準備するも のを板書。 ·授業内容, 目標等を示 し,確認す

の工夫

- これまでの授業研究では授業者の技量等の改善に 視点が置かれることが多かったが、「授業づくりの 視点」を設定することにより、全員が自分の授業に 生かすことを意識して授業研究に取り組めたと思う。
- 視点を設定することで共有する部分はもてたが、 実際に改善する点についてもっと具体的になるとよ いと思った。



【共有した改善策】

これって イイネ!

全職員による授業研究の流れや内容の共通理解

南九州市立霜出小学校

模擬授業や指導案検討など全職員で取り組むようにしました。ワークショップ型の授業検討会 を繰り返し実施することで、みんなが共に学び合い、活発な授業検討の下で改善策を共有できる ようになりました。

先生方の声から

- ファシリテーターを輪番で行い、互いに意識して授 業研究に参加するようになったと思う。
- ファシリテーターを活用したワークショップ型授業 検討も2年目になり、役割を何度も見てきたことから、 どのようにすればよいのかが全職員に理解されたと思 う。
- みんなでつくっていった授業という気持ちでそれぞ れ引き続き実践し,研究を深め,児童にも学年に応じ た学習の仕方を身に付けさせてい きたい。
- 積極的に取り組むという点では 有効な取組だったが、その前に、 授業に対する視点を明確にしたり, 事前に考える時間を十分に設定し たりすることが大切だと思う。



ワークシートには授業づくりの視 点B (特別支援教育に関する視点) と視点C(ICTの活用に関する視 点)に加えて、学校全体の課題とし ている「読み取り」の視点を設定し. よさや改善策を出し合いました。

これって イイネ!

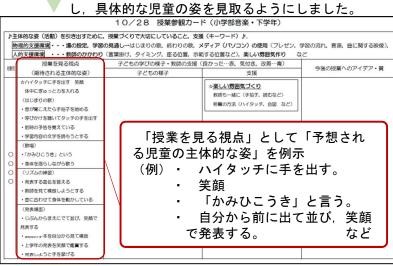
授業参観の視点の明確化

鹿児島県立指宿養護学校

授業で特に見てほしいポイントを明示した「授業参観カード」を作成しました。

5 本時 (A課程, C課程中・高学年14/14時) (C課程低学年11/11) (D課程7/7) (1) 全体目標 対象児童の個人目標 (男) (年 教師や友達をまねながら、簡単なリズム楽譜を見て、リズム打ちをすることがで - 歌詞の一部分を友達と一緒に元気よく歌うことができる。

対象児童の重点目標から題材における個人目標を設定



【個人目標を基にした「授業参観カード」】

すことができた。 児童の主体的な姿に関しては、 あらかじめまとめておき、その姿



【拡大コピーして付箋を貼った「授業参 観カード」】

- 授業参観の視点が明確になった ことで話合いが深まり、限られた 時間の中で指導の方向性を見いだ
- が授業で見られたか、見られたと きの手立てはどうだったかについ て協議すべきだと感じた。

共有した改善策を日常の授業改善につなぐためには, どのようにすればよいのだろうか。

授業検討会で出されたよさや改善策をみんなで共通理解し、意識して実践するとともに、実践し たことを共有することが大切です。

これって イイネ!

改善策の共有

垂水市立垂水小学校

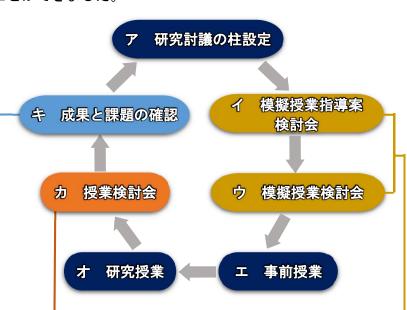
右下の図のような授業研究のサイクルを大切にし、それぞれの過程において全員で取り組みま した。また、授業検討会で出された改善策は研修係がまとめて全員に配布し、全職員が改善策を 日常の授業に生かそうと取り組むことができました。

テーマ研修に関して、研究授業を通して得た成果と課題 扁室≠晒 すべての児童が「分かる喜び」「できる楽しさ」を実感できる授業づくり ~思考力・判断力・表現力を育む算数科の指導~ 討議の柱 特別支援教育に関する視点による分かりやすい授業づくり

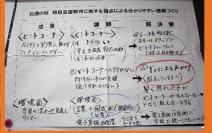
【改善策を共有する職員週報】

<記載している内容の例> 「特別支援教育に関する視点」について

- 1 各グループから出された研究授業の成果
- 学習の流れの提示が有効であった。
- 2 各グループから出された研究授業の課 題及び解決策
 - 環境の工夫(テレビ・机の位置・習 熟度別の座席)
 - スモールステップでヒントを出す。
- 3 指導助言の内容
- 今後の実践に生かしていきたいこと
- 重要単語のチョークの色を統一する。
- 環境面の整備をする(教室前面の掲 示物等)







【「授業づくりの視点」に沿った授業検討会】



改善策は、授業以外でも生かし ました。左の写真は視点B(特別 支援教育に関する視点)を基に、 教室前面の掲示物を精選した取組 です。



- 授業検討会で出てきた共通実践事項を自分の学級で実践する中で、児童の理解や学びの深まりが これまでと比べてどう変容したのかを、練習問題やテストで確認したい。
- 共通理解されたものを実践し、再度振り返ることで生かされていくのではないかと思う。
- 〔視点D(「判断基準」に基づく授業づくりに関する視点)を通して〕「判断基準」を基に1単 位時間でどのような力を身に付けさせるのか意識して授業を進めることができた。

これって イイネ!

改善策の具体化

霧島市立国分南中学校

視点B(特別支援教育の視点)を設定して、ユニバーサルデザインの視点から全ての生徒にとって分かりやすい授業に取り組み、教科の枠を超えた取組を行いました。



発表のさせ方
のたるかけ
(グを納ない生養への対応

) (グを対ない生養への対応

) (グを対ない生養への対応

) (グを対ない生養への対応

) (グを対応する) (原生養が等
いははい) (原生養が等
いははい) (原生養が等
いははい) (原生養が等
いははい) (原生養が等
いははい) (原生養が多) (原生養が多) (原生養が多) (原生養のなど) (原生養のな



【第1回授業検討会の様子】

指示棒やポイントマークの活用

第1回授業検討会で「視覚効果」と「指示棒やポイントマークの活用」という改善策を共有し、第2回の授業で具体化しました。

先生方の声から

- ・ 色チョークの使い方や I C T の活用等、学校全体として共通実 践事項として設定し、自分の実践を徹底したことで授業改善がな された。
- ・ 生徒がどこが要点かということを分かるようになってきた。また、どの生徒も活動すべきことが分かるようになってきたと思う。

【第2回の授業の板書】



【具体化した授業での取組】 学習内容で大事なポイント を生徒がすぐに分かるように しました。

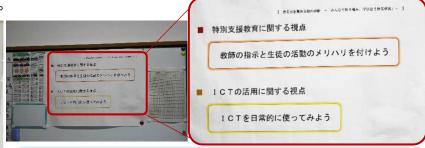
これって イイネ!

改善策の日常的な意識化

いちき串木野市立串木野西中学校、鹿児島県立吹上高等学校

授業検討会で出された改善策を共通実践事項として職員室に掲示し、日頃から具体的な改善策を意識できるようにしました。





先生方の声から

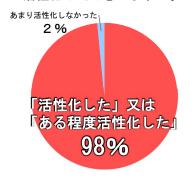
- ・ 視点を設定し、同僚と日常的に情報を共有することが大切 だと感じた。
- ・ テーマや視点をもって授業に取り組むことの大切さを感じた。「授業づくりの視点」を意識することで、ペアワークなどがスムーズにできるようになった。
- 共通実践事項が明確に示されて、それを意識しながら日頃の授業に取り組んだ。

共通実践事項は、日頃から意識して取り組む必要があります。学校評価等を活用しながら取組 状況を確認することが重要です。

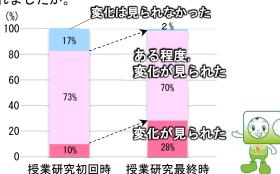
Ш

授業研究実践校の成果とまとめ

Q あなたの学校の授業研究は 活性化したと思いますか。



Q 「授業づくりの視点」に基づく授業を通して、児童生徒の学習活動の様子に変化が見られましたか。



実践校の98%の職員が、授業研究がこれまでと比べて活性化したと感じていることが分かりました。

児童生徒の学習活動の様子についても、多くの職員が変化が見られたと捉えていることが分かりました。

研修係やファシリテーターを経験した先生方の声から

- 教科や学年などの枠を超えて、全職員が自分の意見を出すことができ、新しい発見や見方に触れることができた。
- ・ ファシリテーターを単なる進行役と思っていたが、全体を活発に活動させるための、正に「促進者」としての動きが大切だと感じた。
- 授業検討会で職員の考えの違いをどのように捉え、どのように方向付けていくかが難しいと感じた。
- 「授業づくりの視点」に年間を通して取り組むことで、授業研究が深まると思った。
- 教科の枠を超えた共通実践事項や「授業づくりの視点」を設定したことで、学校全体で授業改善を図ることができると実感した。
- 学年部、教科ごとにファイルを作成し、改善点を書き込む取組を始めることができた。

授業力の向上を図り、全職員で学び合うことができる授業研究に向けて、各学校の課題に応じて、是非、取り組んでください。

! 全職員の協同実践

全職員が授業研究の目的や内容,ファシリテーターの役割を 理解していることが大切です。

年度当初には、研究テーマの確認とともに授業研究の流れやファシリテーターの役割などについて研修し、様々な役割を分担して取り組んではどうでしょうか。

! 授業づくりの視点の設定

学校の課題等を基に,授業づくりから授業参観,授業検討会まで一貫した視点をもつことが 大切です。

児童生徒の実態,学校の課題 や研究テーマなどから授業づく りの視点を設定し,年間を通し て取り組んではどうでしょうか。

(!) 授業研究サイクルの確立

授業検討会で出されたよさや 改善策などを全職員が日常の授 業で実践し、次の授業研究につ なげることが大切です。

よさや改善策を常に意識できる取組だけでなく、学校評価等で振り返り、次につなげることを授業研究サイクルに位置付けて取り組んではどうでしょうか。

授業研究実践校

この研究は、以下の授業研究実践校の協力によるものです。

南九州市立霜出小学校 霧島市立国分南中学校 鹿児島県立南薩養護学校 垂水市立垂水小学校 鹿児島県立吹上高等学校 いちき串木野市立串木野西中学校 鹿児島県立指宿養護学校

≪本研究に関する問合せ先≫

鹿児島県総合教育センター 『プロジェクト研究推進委員会』 099-294-2312(企画課)



本研究に関するWebページ こちらの二次元バーコードもお使いください。 http://www.edu.pref.kagoshima.jp/research/research/project/top.html